

家族でよりよい生活習慣づくりを ～富山市「すこやか教室」より～

本市では、平成 12 年から小学生を対象とした「すこやか検診」を実施しています。「小4 で初めてのすこやか検診」という認識が定着し、今年度も4年生の96.9%が受診しました。その結果、定期的な経過観察や受診が必要と判定された児童と保護者を対象に「すこやか教室」を開催し、①専門医による講話、②専門医個別相談、③栄養士個別相談、④運動指導、⑤キッズチャレンジ（栄養指導）を行っています。今年度は10月15日と29日に開催し、99組の親子にご参加いただきました。

参加された保護者の方からは、「医師や栄養士と個別に相談できて、気持ちが軽くなりました」「人気の給食レシピをもらったので作ってみます。参加してよかった」と好評です。12月には「中学生のすこやか教室」も予定しています。



<専門医個別相談>

「一人一人体質は違います。少ない脂肪分で栄養が足りるエコ体質の人は、普段から少し控えめにする習慣をつければよいのです。習慣になれば自然にできるので苦ではなくなるし、何より、家族みんなが、より健康になれます」（専門医より）

「毎日少しずつの積み重ねが大切ですね。調理やおやつで工夫してみます」

<遊んで学べるキッズチャレンジコーナー>

「野菜300gってどのくらい？いろいろな野菜を摂るといいんだよね」
実際に量って体感してみました。



レジ袋を使って、ちょこっと運動。特別な準備がなくても、親子で遊びながらじんわり汗をかく運動量でした。

<運動指導>

授業における特別な教育的支援の視点とは ～今年度の研究員研究から～

今年度の研究員研究は、6月8日から9月28日まで5回に渡り、テーマ「授業における特別な教育的支援に関する研究」を行ってきました。富山大学人間発達科学部和田充紀先生を講師として招聘し、小中学校8名の教員が研究員として集まり、今年度の研究テーマ解明を行ってきました。



研究員は、小学校・中学校の各部会に分かれ、授業においてどのような手立てがよりよいか、指導案を持ち寄って話し合いを行いました。その話し合いをもとに指導案を練り直し、実践を行いました。

そして、各自の実践から、成果と課題を出し合っていました。その中から、「子どもの興味関心が持続するような課題の提示が重要になってくる」「教師が、子ども一人一人に授業に参加しているという意識をもたせる手立てが大切である」と、子どもの実態に応じた指導の在り方の重要性を明らかにしてきました。そして、和田先生からは主な指導・助言として、以下のような内容を教えていただきました。

- まず、子どもが自分の居場所を感じ、自己肯定感を高めていくような学級づくりが基本である。
- 授業において、ねらいを明確にした教材研究・発問の吟味、子どもの興味関心が高まるような教材、一人一人が学びがいのある授業構想等を大切にしたい。
- 子どもに関する情報共有、協働的な職員関係、校務の効率化等、職員が取り組みやすい学校環境を大切にしていける。

子どもたちは、それぞれ個性をもち、それぞれの感性を生かしながら、日々学んでいます。そのよさが発揮されるような授業を意識していくことの大切さを感じました。本研究の詳細につきましては、3月に発行する「研究集録（第13号）」で紹介いたします。